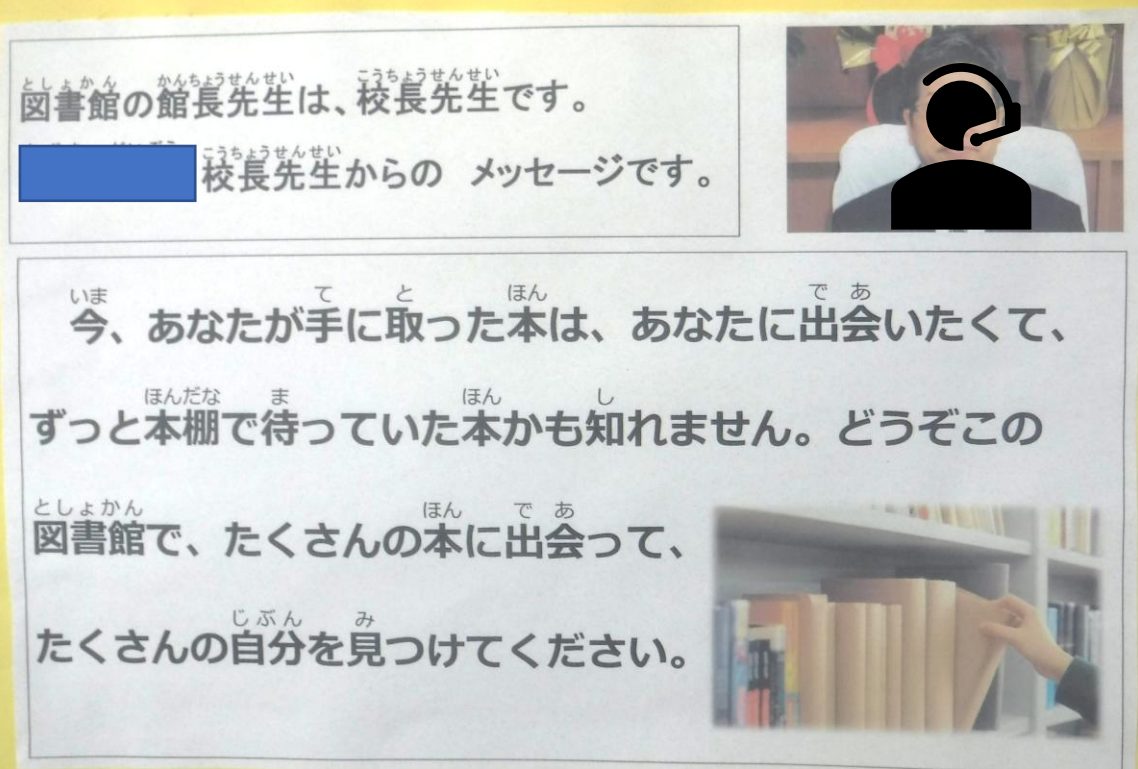


## 「やってみよう！学校図書館の価値を示そう 私のチャレンジ」


- 1 校長は学校図書館館長という認識を広げる
- 2 司書教諭の存在・役割をアピールする
- 3 学校司書との打ち合わせの時間を確保する
- 4 授業支援できる学校図書館に整備する
- 5 学校図書館の3つの機能について教職員の理解を図る
- 6 教職員の学校図書館への興味関心を高める
- 7 授業における学校図書館活用を増やす
- 8 授業に役立つ資料・情報を提供する
- 9 オリエンテーションや利用指導を実施する
- 10 読書指導を充実させる
- 11 ICT担当者と連携・協力する
- 12 学校図書館からの情報発信の方法を工夫する
- 13 公共図書館等と連携する

\* 林良子先生の資料（「日本学校図書館学会静岡支部発行の資料を参考に林が作成」より


# やってみました！ 小学校

重点番号 1	実施した内容・学年 学校図書館に掲示
実施した時の様子 (文章、写真等)	 <p>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>ょ<sup>ょ</sup>か<sup>か</sup>ん<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>か<sup>か</sup>ん<sup>ん</sup>ち<sup>ち</sup>ょう<sup>ょう</sup>せん<sup>せん</sup>せい<sup>せい</sup>は、か<sup>か</sup>ん<sup>ん</sup>ち<sup>ち</sup>ょう<sup>ょう</sup>せん<sup>せん</sup>せい<sup>せい</sup>です。</p> <p>校長先生からのメッセージです。</p> <p>今、あなたが手に取った本は、あなたに出会いたくて、 ずっと本棚で待っていた本かも知れません。どうぞこの 図書館で、たくさんの本に出会って、 たくさんの自分を見つけてください。</p> <p>4月の教育計画発表の時に、「学校図書館の館長はj校長先生です」と発表し、校長先生にメッセージを考えていただき、学校図書館カウンター上と図書館入り口に掲示した。</p>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"><li>・昨年度の同様に教育計画発表で「学校図書館の館長は校長先生です」と発表して校長先生にメッセージを考えていただいた。年度初めに伝えることがきてよかった。</li></ul>

# やってみました！ 小学校

重点番号 1	実施した内容・学年 学校図書館に掲示 ・職員向け図書館だよりにて紹介
実施した時の様子 (文章、写真等)	<p data-bbox="759 472 1174 515">2 司書教諭と学校長</p> <div data-bbox="919 519 1755 1108"><p data-bbox="952 544 1378 586">図書館の館長先生は、校長先生です。</p><p data-bbox="952 639 1421 682">宮本 博校長先生からの メッセージです。</p><ol style="list-style-type: none"><li data-bbox="945 729 1640 815">1 本は、あなたがページを開いてくれることを、ずっと待っています。 —あなたに「夢」と「希望」と「豊かな言葉」をプレゼントするために—</li><li data-bbox="945 858 1625 943">2 本は、あなたに語りかけます。 —「がんばっているね」「応援しているよ」「新しい発見をしてね」—</li><li data-bbox="945 965 1696 1051">3 本を読むこと・絵本を見ることで、相手のきもちがわかる人になります。 —同じ本を読み返すと、自分の心の成長に気づけるでしょう—</li></ol></div> <p data-bbox="1844 465 2244 1136">4月の教育計画発表の時に、「学校図書館の館長はj校長先生です」と発表し、学校長にメッセージを考えていただき、学校図書館カウンター上に掲示した。職員向け図書館だよりは、8月に配布した。</p>
振り返り	<p data-bbox="631 1200 2308 1415">図書館に掲示した次の日に、「校長先生、見たよ」と校長室に話しにきた児童がいた。職員向けの図書館だよりは4月に配布するつもりでいたが、異動してすぐということもあり（言い訳）、配布は8月になってしまった。今後も無理のないように発行していきたい。</p>

# やってみました！ 小学校

<b>重点番号2, 10 13</b>	<b>実施した内容・学年 5年 朝の時間に担任による読み聞かせを行う</b>
<b>実施した時の様子 (文章、写真等)</b>	<p>1 昨年度3学年で学級担任と司書教諭の3人で交代しながら読み聞かせを行った。今年度の5学年主任は昨年度の3学年の担任であり、昨年度の読み聞かせは良かったという話になり、5年生でも読み聞かせを行っていくことになった。</p> <p>2 NRTを実施しての振り返りで「聞く」ことに課題があることから、昨年度3学年で行った読み聞かせを5年生でもおこなっていくことにした。</p> <p>国語の「本は友達 作家で広げる わたしたちの読書」という単元で同じ作家の本を選んで紹介する学習をしていたので、星野道夫さんの本を集めて（市立図書館から団体貸し出し）ブックトークを行った。</p> 
<b>振り返り</b>	・昨年度の取り組みの成果を今年度の取り組みに生かしていくことができよかった。

# やってみました！ 小学校

重点番号 2、8 実施した内容・学年 6 学年 「ピアニストの兵隊さん」学習会 (9/25)

実施した時の様子  
(文章、写真等)

・中野市で実際にあった戦争の頃の話が題材となっている「ピアニストの兵隊さん」という本から学ぶ学習会を行った。地元で音読指導をされている方による本の朗読と本の著者（松本市在住）の方によるお話を聞き、十三崖地下壕保存と中野の戦争を語り継ぐ会の方に十三崖地下壕の事をお話していただき、地下壕のジオラマも見せていただいた。



振り返り

・10月に松代大本營の見学を行い、その後平和について今の自分が考えていることを一人一人ですとめて発信する予定。

# やってみました！ 小学校

<b>重点番号</b> 3	<b>実施した内容・学年</b> 学校司書との打ち合わせは、授業の空き時間に「パスファインダーを作りたい」
<b>実施した時の様子</b> (文章、写真等)	<p>平野小学校 図書館 パスファインダー 「ピアニストの兵隊さんと太平洋戦争」についての本の探し方 ☆「パスファインダー」とは</p> <p>3 本を探してみましよう * 1と2で手に入れたキーワードを使って、本を探してみましよう。 平野小学校図書館で探してみましよう。</p> <p>「ピアニストの兵隊さん」学習会を終えたところで、以前に作成したパスファインダーを本校バージョンにリニューアルしたいと思い、ある日の朝に学校司書の先生に、「本校にある戦争に関する本をリストアップしてほしい」とお願いをしたところ、放課後には31冊の本のデータをリストアップしてくださった。このパスファインダーを使って、平和について調べてほしい。</p>
<b>振り返り</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校司書の先生との打ち合わせは特に日時を決めているわけではなく、司書教諭の空き時間や図書館の開館時間に図書館に行き、相談をしてきた。</li><li>・「子ども達が本をどう返してよいか困っている」と学校司書の先生がお話をしてくださり、本の配置を少しずつ変更中。職員図書コーナーも開設予定。</li></ul>




# やってみました！ 小学校

重点番号 6	実施した内容・学年 司書教諭の時間を週1時間確保しよう！
1 成果（よかったこと、うまくいったこと）	<ol style="list-style-type: none"><li>1 「司書教諭日記」を用意して学校司書の先生と今年度の振り返りを行った &lt; 2月5日（金） &gt;</li><li>2 図書館の本棚の位置交換をすることを教頭先生に伝え、職員会後に行うことを決定&lt; 3月4日 実施予定 &gt;</li><li>3 校長先生に「来年度1時間司書教諭の活動時間を確保してほしい」とお願いに行く<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 図書館利用指導計画を見ながら司書教諭の活動時間を週1時間（仮に金曜日5時間目とする）として活動計画をたてて年間予定表に書き、学校長に提出した</li><li>(2) 学校図書館ガイドラインを印刷して、（2）学校図書館の利活用の部分を「司書教諭として週1時間の活動時間を確保するための根拠」として説明し学校長に提出した</li></ol></li></ol>
2 課題・悩み・疑問	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 1時間の予定が、話が終わらずに2時間の打ち合わせとなった。</li><li>・ 話をすることで棚を動かす作業を行うことになった。</li><li>・ 時間をとって話すことが次の活動への大きな原動力となった。（計画の時期とは違うが、お話会（1年）、図鑑の使い方（2年）、百科事典の使い方（4年）の授業を行うことが決まった。</li></ul>


# やってみました！小学校

重点番号 6	実施した内容・学年 松岡享子さんの本を読んでみよう（司書教諭だよりへ）
1 成果（よかったこと、うまくいったこと）	<ol style="list-style-type: none"><li>1 「おはなし 大人から子どもへ 子どもから大人へ」（東京子ども図書館）</li><li>2 「サンタクロースの部屋ー子どもと本をめぐるー」（松岡享子 こぐま社）</li><li>3 「意識の海へ」（東京子ども図書館）</li><li>4 「物語の海へ」（東京子ども図書館）</li><li>5 「絵本の庭へ」（東京子ども図書館）</li><li>6 「よみきかせのきほん」（東京子ども図書館）</li><li>7 「ブックトークのきほん」（東京子ども図書館）</li><li>8 「子どもと本」松岡享子（岩波新書）</li><li>9 「えほんのせかい こどものせかい」（松岡享子 日本エディタースクール出版社）</li></ol> <p>1, 2 語る人のために・語り大切さが伝わる本 3～5 リスト本「この3冊は、間違いない。頼りになる本」（林先生より） 6、7 読み聞かせ、ブックトークの「基本」がよくわかる 8</p>
2 課題・悩み・疑問	司書教諭委員会の中で林先生から紹介していただいた本を読んでみた。林先生は、ブックトークに使う本を決める時に「3～5のリストに載っているかどうか」を判断基準の一つとしているとおっしゃっていた。また、「2の本から文章を引用することが多い」とおっしゃっていた。


# やってみました！ 小学校

<b>重点番号</b> 6, 7	<b>実施した内容・学年</b> 6年 国語 本は友達 私と本
<b>実施した時の様子</b> (文章、写真等)	<ul style="list-style-type: none"><li>・昨年度6年を担当した先生から、「ブックトークの取り組みがとてもよかったので今年度も取り組みたい」と声をかけていただき、司書教諭が学年会に参加して、ブックトークの授業について提案した。</li><li>・学級担任3人と学校司書、司書教諭の5人でブックトークの実演を行い、それを見て児童がブックトークに取り組むという流れで行った。昨年度のデザインシート（本校の授業案）を修正して実施した。</li><li>・9月に平和をテーマにした本の学習会を行う予定なのでテーマは「平和ってどんなこと?」とした。</li><li>・ブックトークについての説明をするパワーポイントも昨年度のものを修正して使用した。</li></ul> 
<b>振り返り</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・昨年度のデザインシートとブックトークの説明のパワーポイントがあったのですぐに取り組むことができた。</li><li>・ブックトークで紹介した本の1冊が「ピアニストの兵隊さん」という本で2学期にこの本の学習をするので、前任校から35冊本を借りて読んだ。</li></ul>

# やってみました！ 小学校

重点番号 7	実施した内容・学年（「としょかんとなかよし」本探しゲーム 1年）
実施した時の様子 (文章、写真等)	<p>1年生の国語「としょかんとなかよし」の単元で、図書館を利用し、本探しゲームをおこなった。</p> <p>5つのテーマ（①むかしばなしのほん②ひょうしにはなのえがあるほん③おりがみのほん④だいまいが「〇〇ずかん」のほん⑤だいまいがおもしろいほん）に関する本をグループで協力して探し、ワークシートに題名を書き込み、最後はその中で紹介したい本を1冊ずつグループで選び、クラス全体に紹介した。</p> <p>今まで絵本しか借りられなかった1年生が絵本以外の棚から本を探す活動を通して、いろいろな本に興味を持ち親しむことができた。</p> 
振り返り	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2冊貸し出しが始まる前の週に行ったことで、普段借りられなかった棚の本に興味を持ち、次の週から借りられることに期待感を持たせることができた。</li><li>・ 普段借りないジャンルの本を手にとること、紹介してもらうことでいろいろな本を読みたいという気持ちを持つことができた。実際、翌週の図書館の時間に「おりがみの本かりたよ！」という子等がいた。</li></ul>

# やってみました！ 小学校

重点番号 7・10	実施した内容・学年 POP作成・ビブリオトーク(6年)
実施した時の様子 (文章、写真等)	<p>1学期のまとめの学習として、国語の授業で『私と本』の単元を行いました。一度どこかでビブリオトークをしてみたいと考えていたので、図書館もしくは自分の家から持ってきたオススメの一冊で、2分間(3分間?)のビブリオトークを行いました。その際、ただ本を見せるのではなく、自分でその本のPOPを作り、それを見せながら紹介するというやり方で行いました。各班でまず代表者を決め、その後、代表の6名が前で発表を行い、クラスのチャンプ本を決めるという流れでした。2分間という決められた時間の中で、どうすれば相手によりよく伝わるか考えて作成している子どもの様子が印象的でした。</p> 
振り返り	<p>作成したPOPは「全国学校図書館POPコンテスト」に応募しました。結果は3月ごろだそうです。作ったものをどこかに出すという手法を僕はよくやりますが、何かしらご褒美がもらえるかも知れないという思いがあると、子どもたちはやる気になるそうです。</p>

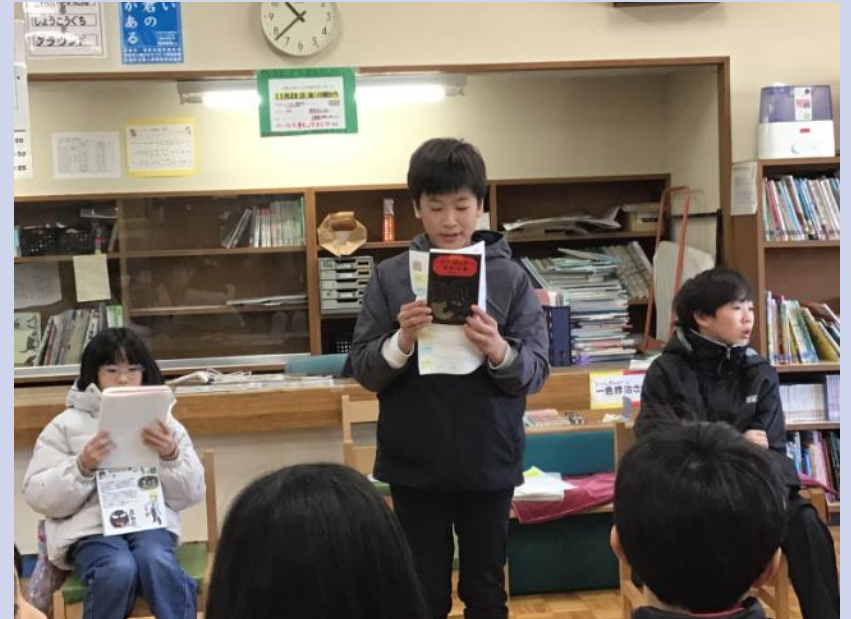


# やってみました！ 小学校


重点番号 7・10 実施した内容・学年 ビブリオトーク(全校)

実施した時の様子  
(文章、写真等)

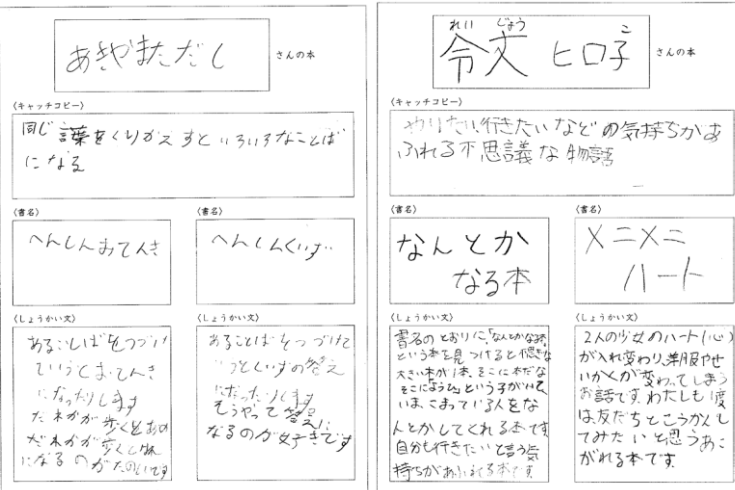
図書委員会の活動でも、ビブリオトークをやりたいという声があったので、行っていました。代表者集めなど、委員は苦心していましたが、本番は多くの児童にも参加してもらい、大変盛り上がっていました。1回と言わず、2回、3回と続けてやっていくと、全校でも本を読んでみようという意識作りができると思うので、継続することが大切だと感じます。



# やってみました！ 小学校

重点番号 9	実施した内容・学年 国語『図書館を使いこなそう』から著作権について・5年
実施した時の様子 (文章、写真等)	<ul style="list-style-type: none"><li>・あらかじめ、担任と学校司書が、著作権について改めて学習しておいた。</li><li>・国語『図書館を使いこなそう』で、図書館での本の探し方を図書館の配架を見ながら確認した。</li><li>・著作権について、国語の教科書の記述から学び、著作権フリーのクイズに挑戦して、何が著作権の侵害にあたるのか、著作物を使うときに気をつけることは何か、考えた。</li><li>・「学校で勉強に使うためには、いろいろできるんだね」「家でも子どもなら同じだと思ってた」という感想があった。</li></ul> 
振り返り	<ul style="list-style-type: none"><li>・著作権について、担任自身が学ぶことが多かった。</li><li>・インターネットを利用して情報を集める際、「AIまとめていいんじゃないの？」という児童もいるため、必ず出典を確認することと、それを明記することを意識づけている。</li></ul>





# やってみました！ 小学校

<p>重点番号 10</p>	<p>実施した内容・学年 国語『作家で広げるわたしたちの読書』・5年</p>
<p>実施した時の様子 (文章、写真等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語『作家で広げるわたしたちの読書』で、本の選び方を出し合った。ジャンル(分類)、新刊、シリーズ、挿絵などが挙がった。</li> <li>・「読みたい本がない」「選べない」という意見もあった。</li> <li>・今回の学習では作家に着目することにし、図書館で同じ本の作者を2冊選んで読んだ。</li> <li>・本を決められない児童には、今までの読書記録や興味のある分野から担任や学校司書がアドバイスし、選ぶようにした。</li> <li>・読書後、友だちに紹介するため、その作家の作品に共通するよさからキャッチコピーを考えた。</li> <li>・ワークシートと本をもとに、友だちと紹介し合った。</li> </ul> 
<p>振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃選ぶ本が、学習マンガや写真中心の児童は、作家で本を選ぶことへのハードルがとても高かったが、読み聞かせで聞いたことのある絵本なら手に取ることができた。その中で、共通点を見つけて楽しむ様子も見られた。</li> <li>・自分が好きなジャンルやテーマがよりはっきりとして、友だちとの情報交換を楽しめた児童もいた。</li> </ul>

# 「やってみました」の振り返り

<p>1 「やってみた」を実践しての成果 (よかったこと、うまくいったこと等)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・タブレットを使う機会も多く、著作権についての意識を児童と共有することができた。一度しっかりと扱っておくと、「著作権のことね」と、伝わりやすくなる。</li><li>・『作家で広げるわたしたちの読書』は、国語の学習として行ったため、きちんと時間を確保して読書に取り組むことができた。</li></ul>
<p>2 「やってみた」を実践しての課題・悩み・疑問 (うまくいかなかったこと、困ったこと、どうすればよいか分からなかったこと等)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校司書の先生や学年の先生とは情報交換をしていたが、全校の先生方に、図書を利用する学習のための資料や情報の提供などはできなかった。</li><li>・子どもたちはどんどんAIを使い始めている。簡単に整理された情報が手に入るようになり、探究的な学習を進める際にも、出版された資料を用いる機会は減っている。便利さ、情報の鮮度ではネット情報の方が子どもたちには使いやすい。情報の信頼性のためにも併用していきたいが、学校図書館はこれからどうあるべきか。</li></ul>

やってみました！ 小学校

重点番号 10	実施した内容・学年
実施した時の様子 (文章、写真等)	<p>授業の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①ポップの作成例を示し図書館で書きたい本を探す。</li><li>②本を読みどのようなデザインにするか想像を膨らませる。</li><li>③作成。</li><li>④図書館に飾る。</li></ul>    

振り返り	<p>「やってみました」の振り返り (氏名 千曲市立戸倉小学校)</p> <p>1 「やってみた」を実践しての成果</p> <p>子どもたちが本の良さを紹介するという目的意識をもって本を読むことができた。自分の好きな本だけではなく、相手意識をもって本を読むことができた。</p> <p>2 「やってみた」を実践しての課題・悩み・疑問</p> <p>単発ではなく、様々な読書活動をしていきたいが、時数の関係もあって、なかなか継続した活動ができない。</p>
------	---

# やってみました！ 小学校

重点番号 10	実施した内容・学年	
<b>実施した時の様子 (文章、写真等)</b>	<p>光村図書国語：作家で広げるわたしたちの読書（5学年） 本の選び方について、友だちと話そう。ふだん、どのようにして読みたい本を選んでるか、友だちと話しましょう。 ⇒今までの読書経験や、現在の読書力、読書への興味などに大きな個人差があり、この単元に対して本質にせまることができなかった。 ⇒「9分類の中で好きな本、教えて」</p>	
<b>振り返り</b>	<p>かいけつゾロリシリーズ（4名） ※4 歴史漫画タイムワープ（5名） ※4 青空小学校いろいろ委員会（4名） 名探偵シリーズ（3名） 科学探偵 謎野真実シリーズ（3名） 科学探偵 おしりたんてい 探偵チームkz（2名） シャーロック・ホームズ ※1 怪盗アルセーヌ・ルパン ※1</p>	<p>10歳までに読みたい世界名作 ※1 5分後に意外な結末 君色パレット 図書委員は泣かない ひみつの子猫 魔女のナニーさん 四つ子ぐらし 机の下のウサキチ ※2 東海道中膝栗毛絶体絶命ゲーム ラストサバイバル 青鬼 絶望鬼ごっこ 殺人系 怖い系 はじめてよむこわ〜い話 最後がバッドエンドの本 スウィート&amp;ビター（恋に正解ってある？） 甘いだけじゃない4つの恋のストーリー おばけのアッチ ※4 こまったさん</p>
<p>9分類の本は読みづらい ⇒ 妖怪大図鑑 図鑑や百科事典 9分類の本は読みにくい ⇒ 6分類 動物・畜産 ノンフィクション 捨て犬その命の行方 まだ習ってない漢字にふりがながついている本 ※5</p>		

## 2 児童の姿から

### ※1 学校司書の先生とのつながり

シャーロック・ホームズ

怪盗アルセーヌ・ルパン

図書授業の導入で司書の先生に読み聞かせ、紹介していただいた本。その本との出会いが、自分でも読んでみたいと手にとるきっかけとなり、「私の好きな本」となるまで発展している。S児は、読み聞かせだけでなく、授業における本との出会いをととても楽しみにしている。

### 世界名作

N児が、司書の先生の読み聞かせ（レ・ミゼラブル）とビンゴ（名作編）の取り組みにより、夢中になっているシリーズ。友だちと体を動かすことが大好きなN児だが、時々昼休みに一人で夢中になって本を読んで過ごすようになった。

### ※2 教科書・授業・友とのつながり

机の下のウサキチ

K児は、国語の授業で行った「作家で広げる私たちの読書」において、教科書に載っていた「岡田淳」さんの本を選んでいる。授業の際、お気に入りの作家を紹介したR児が「岡田淳」さんを選んでおり、授業後2人が話をする姿が見られた。

K児には、選書時に必要に応じて他の作品も紹介していく支援をすることで広がりを持たせられそうである。



光村図書国語5年 p.90 より↑

※3 ストライクゾーンに入る本とのつながり

マインクラフト

H児は、ゲームが大好きな児童である。しかし、上記の興味のある分野の本との出会いをきっかけに、たくさん読書をするようになった。とても小さい字の大きさであるのだが、全く気にならないようだ。ストライクゾーンに入る本と、たくさん出会わせて読書量がさらに増えるよう支援していきたい。

キャプテン翼

A児は、図書館の授業も落ち着かず、朝読書もしないなど読書に興味をもてない児童であった。好きなカエルの本、習いごとに関わる本などを勧めていたが、ある日自分で見つけてきた上記の本がぴったりはまった。習い事はサッカーではない。「先生、これめっちゃおもしろい！」と黙々と朝読書をしていた。ストライクゾーンに入る本に出会える日まで、図書館に入る機会を確保し、本の情報が入る環境を設定していきたい。

※4 読む気になる「見た目」に寄り添う

かいけつゾロリシリーズ（4名） おばけのアッチ

歴史漫画タイムワープ（5名）

学級の中の約3分の1の児童は、上記のような本を手にする。担任から見て、図書館利用が少なく、読書量に課題のある児童がほとんどである。

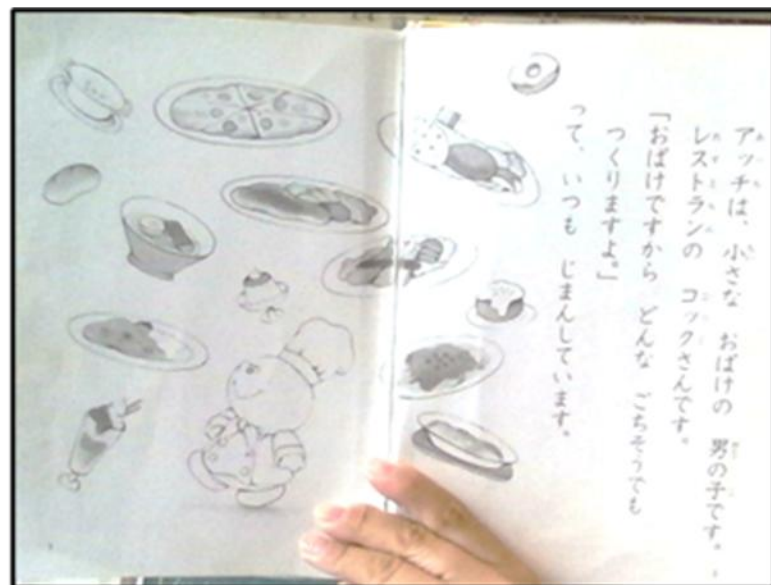
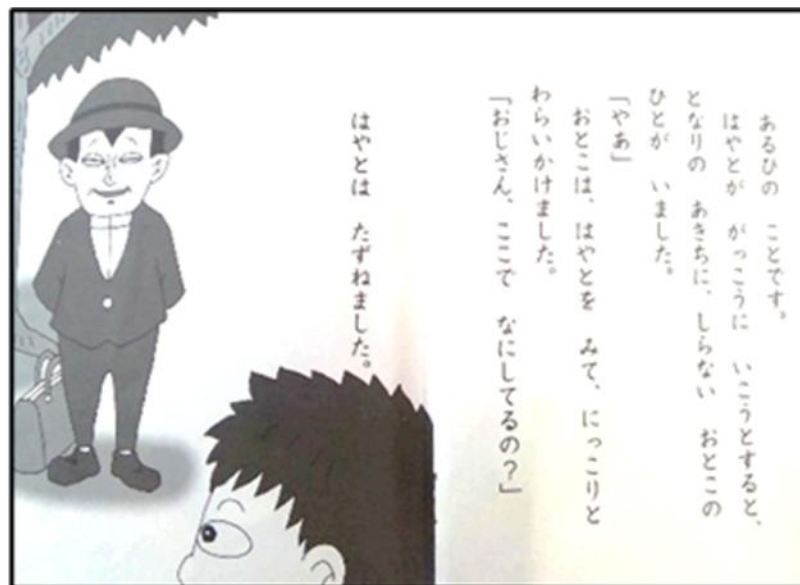
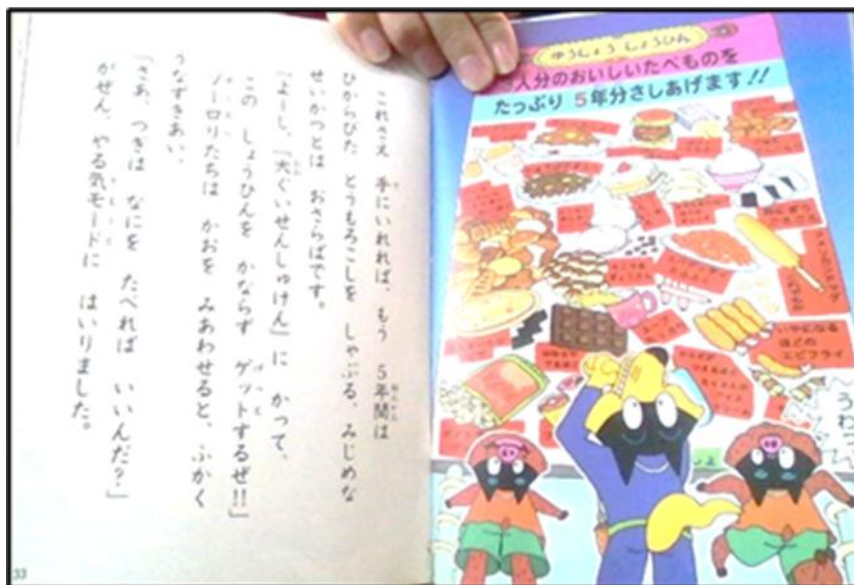
「ずっとゾロリが好きで読んでるんだよ。」

「絵がないと、おもしろくない。」

「漫画じゃないと、読む気になれない。」


「表紙がおもしろそうでも、中を開くと（字の大きさが小さすぎて）ウワッてなる・・・」

9分類で、どのような「見た目」の本なら読む気になるか聞くと、以下のようなページを開いた。






# やってみました！ 小学校

重点番号 10	実施した内容・学年 学校図書館に掲示 ・職員向け図書館だよりにて紹介
実施した時の様子 (文章、写真等)	<p>※5 児童の学びに寄り添う</p> <p>今回の調査で、9分類の本に好きな本はなく、読みづらい、読みにくいと回答した児童がいた。まだ習っていない漢字にふりがながついている本と書いた児童もいた。</p> <p>S児は、拾い読みまでではないが、言葉のかたまりで文章を読み進めることが難しい。教科書の読み慣れていく文章でさえ、スラスラ読むことが難しいため、初見の文章はなおさら困難が生じる。司書の先生と連携し、9分類にこだわらない選書指導を続けていきながら、「読み聞かせが好き」と言っているS児に担任からもアプローチをかけていきたい。</p> <p>K児は、調査で「6分類 動物・畜産 ノンフィクション 捨て犬その命の行方」と書いた。K児は、環境問題、動物保護に強く興味を示す児童である。図書館に入ると、9分類以外の分類の本にまっしぐらだ。「先生、ぼくこれが借りたいな。前読んだ動物保護の本とつながりそうなんだよな・・・見て。」と6分類のノンフィクション「捨て犬その命の行方」を見せた。「前読んだ動物保護の本」は、K児が自主学習で右のポスターを描くほどに心を動かしたことがわかる。また、土日には県外で行われたアカウミガメの放流に参加し、環境問題にも強い興味を示し、自主学習で新聞を作っている。</p> <p>K児にとって、学校図書館が「読書センター」としての存在であるとともに、「学習・情報センター」としての役割を大いに果たしていることがわかる。そのようなK児の学びを認め、寄り添い、今後も図書館の本が多くの学びの材料となるよう声をかけ、支えていきたい。</p> 
振り返り	○年生では、このぐらいの本を読んでもらいたいという思いは大切で必要な読書指導であるが、その本からおいてけぼりにされてしまっている子が少なからずいる。読む力も興味もない児童の切り口を丁寧な個別指導や個々の見取りを重ねた教材研究が必要だと感じた。あわせて、学校図書館司書と連携を図りながら、子どもたちの「本との出会い」を大切にしていきたい。



# やってみました！ 中学校

重点番号 10	実施した内容・学年 毎日、学校図書館にある本を持ち歩く
実施した時の様子 (文章、写真等)	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 学校図書館で借りた本を毎日持ち歩いた。</li><li>➤ 授業で使うカゴ・バッグなどに入れておく。</li><li>➤ 授業開始前・終了後に話題にする。</li><li>➤ 休み時間に生徒と一緒に持ち歩いた本を読む。</li></ul> 
振り返り	毎日持ち歩くことで授業前・後に生徒が本を見つけ、「同じ本を借りたい」「これ読んだことある」などと、本に関わる会話のきっかけになった。さまざまなジャンルの本を持ち歩いて生徒の目に触れるようにすることで、話題の幅が広がったように思う。

# 「やってみました」の振り返り

<p>1 「やってみた」を実践しての成果 (よかったこと、うまくいったこと等)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業前・後に生徒が本を見つけ、本に関わる会話のきっかけになった。</li><li>・さまざまなジャンルの本を持ち歩いて生徒の目に触れるようにすることで、話題の幅が広がった。</li><li>・気軽にできるので、精神的な負担がない。</li></ul>
<p>2 「やってみた」を実践しての課題・悩み・疑問 (うまくいかなかったこと、困ったこと、どうすればよいか分からなかったこと等)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒の読書量や、図書館利用者数の増加につながっているかは不明。</li><li>・たくさんの本を持ち歩くと荷物が多く、重くなる。</li></ul>

# やってみました！ 中学校

<p>重点番号 10</p>	<p>実施した内容・学年 冬の読書旬間 ・ 全学年</p>	
<p>実施した時の様子 (文章、写真等)</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">   </div> <div style="width: 50%;"> <p><b>【冬の読書旬間】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本のPOPづくり (生徒・職員) おすすめ本の紹介 人を惹きつけたり印象づけたりする言葉や デザインを考える →町図書館、近隣の中学校で展示させていた だく予定</li> <li>・ストーリーテリング 朝読書の時間に地域の読み聞かせボラン</li> </ul> </div> </div>	
<p>振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な方法や視点で本とじっくり向き合うことができた方をお招き(先ず実施地域の方、給食調理員の先生方など)のご協力が不可欠だと感じた。</li> <li>・ POPづくりやストーリーテリングなど、学習の一環として図書館の利用を位置づけることで、普段は本になじみのない生徒も必然的に関わる機会を求めることができた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">給食調理員の先生、調理員の先生方</p>	

# 「やってみました」の振り返り

<p>1 「やってみた」を実践しての成果 (よかったこと、うまくいったこと等)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 様々な方法で本に親しむ機会をつくれた。生徒も私自身も本の楽しみ方や関わり方の視点が広がった。</li><li>・ ストーリーテリングは今年度初めて実施したが、落ち着いた気持ちで1日のスタートをきることができた。活動の意味づけ(明確な目的や意図)が重要だと感じた。</li></ul>
<p>2 「やってみた」を実践しての課題・悩み・疑問 (うまくいかなかったこと、困ったこと、どうすればよいか分からなかったこと等)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 読書旬間の企画として様々な取り組みを実施したが、司書教諭だけでは力不足だと実感した。先生方や地域の方も巻き込むことで、より充実した活動になると思う。</li><li>・ PCやタブレットの存在が大きく、図書を利用する必要性を生徒も職員も感じにくくなっている。その中で、図書館教育をどう価値づけたり位置づけたりしていくかが難しいと感じた。</li></ul>

# やってみました！ 小学校

重点番号 12	実施した内容・学年 全校 全校で「うちどくの日」の取り組みを開始
実施した時の様子 (文章、写真等)	<ul style="list-style-type: none"><li>・今年度から、全校で「うちどく（家読）の日」の取り組みを開始した。</li><li>・毎月第4曜日を「うちどく（家読）の日」と位置づけた。</li><li>・「うちどくカード」を配付して、学期の最後の月には児童と保護者のふりかえりを記入した。</li><li>・「うちどくの日」がある週の学年だよりには、「うちどくの日です」と呼びかける文章を掲載していただく。</li></ul> <p>&lt;うちどくのねらい&gt;</p> <p>「うちどく」（家読 家庭読書）は、「本をコミュニケーションツールに家族と一緒に読み、読んだ本について話すことで、家族のコミュニケーションを図る」ことを目的にしています。読書は個人的な体験ですが、感想を話し合ったり、人にすすめたりして言葉にすることでコミュニケーション能力や読解力、表現力を高めることにつながります。</p>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"><li>・昨年度の3学期から教務学年主任会、職員会で提案をして今年度の教育計画に盛り込み、4月から実施することができた。「うちどくさん」は、第4週の木曜日の図書当番が昇降口に展示する役目としている。1学期の児童、保護者の感想は「うちどくの日」を肯定的に受け止めてくれている。その感想も学年だよりや学校司書の先生が発行してくださる図書館だよりにて掲載していく。</li></ul>